

ムシ 虫せず 虫目 虫の世界

私たちと同じ地球に生きる仲間、昆虫。
「脊椎動物の中で一番進化しているのは哺乳類のヒト、無脊椎動物は節足動物類の昆虫。世界中で一番種類・個体数も多く、形態や生態も多様で神秘的な昆虫！それも昆虫に魅力を感じ大好きな理由のひとつ(成見先生より)」
小さいけれど、地球を見守っている昆虫に注目。



未来館講座講師としてもお世話になっている 成見和總先生にお話を聞きました。

※成見和總先生は、教職につき、国・県公立小中高校教師、県総合教育センター等を経て、鹿児島市立武小学校校長を歴任。定年退職後は、県立博物館学芸指導員、鹿児島国際大学非常勤講師としてご活躍され、現在は、鹿児島純心女子大学非常勤講師をされています。著書に「路傍の昆虫記 一南九州の虫たちを追いかけて」、「私の教育アルバムⅠ～Ⅴ」

成見先生にとってトンボは、宝・生命・お守り(玩具→親友→兄弟→恋人→学友→恩師→神仏様)のような存在だそうです。それ故に、趣味事のトンボを通していろいろなことを学び、ご専門の「生活科・理科・総合的学習教育等」教育研究に役立ててられました。

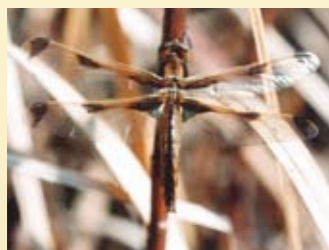


ハッチョウトンボ
(日本のトンボの中で最小の体長約17mm)

●昆虫、特にトンボに興味をもったきっかけは？

子どもの頃から動物とりわけ昆虫が好きで、いわゆる昆虫少年でした。中学3年生の時、鹿児島県では絶滅したと思われていたハッチョウトンボを見つけました。勧められるままにトンボの生態研究を始め、その後昆虫と子どもが好きだったので理科教師になりました。

鹿児島県は自然に恵まれています。自然はデッカイ・シンプル・オネスト(正直)で、探れば探る程に裏切ることなく素晴らしい答えを教えてくれると同時に、奥ゆかしく新しい課題も提示してくれます。



ベッコウトンボ

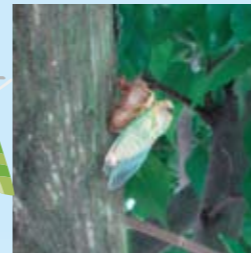
●地球環境、自然の変化、開発が昆虫にも影響を与えていると感じますか？

昆虫も人も地球に生きる生き物だから、影響を受けるのは一緒です。トンボは、水・陸・空、全ての影響を受ける昆虫(とりわけ水域をすみかとする幼虫)なので、減ってきているのは事実です。しかし、トンボは、3~4億年前から生きていた大先輩としての生き物だけあってたくましさも持っています。ベッコウトンボは、日本国内のトンボの中でも一番減り幅が大きい種ですが、薩摩川内市の蘭牟田池は、自然のままでもベッコウトンボのたくさんいる唯一の場所です。これからは、普通種といわれる身近にいる赤とんぼやシオカラトンボにも注目して観察していきます。

チュウモク

観察に行こう！

気軽に探せる場所をご紹介します！家族みんなで行ってみよう！
山やしげみに入る時には服装のポイントも参考にしてね。



セミの羽化

セミの幼虫は、夕方土から出てきて木に登り、夜に羽化します。セミが鳴く木を、夕方見に行ってみよう！大人の人と一緒にね♪

帽子

できれば白っぽいもの

タオル

首にまいて虫の侵入を防ぐ

服

白っぽい長袖長ズボン

手袋

軍手でもよいが、ゴム製だとより安心

靴

サンダルはNG
長靴の方がよい



街灯に集まる虫

いつもは目をそらしてしまいが、どんな虫がどんなところに集まるのかを観察してみると新しい発見があるかもしれませんよ！

育ててみよう！

蝶の幼虫はそれぞれ好きな植物が違うので、図鑑で調べて探しに行こう。
育ててみると意外と可愛かったり、新しい発見や感動があるかも！



未来館のパンジーに住んでいたツマグロヒョウモンの幼虫を育ててみました。



毎日もりもりパンジーの葉っぱを食べて大きく育て、天井のネットでさなぎになりました。



2週間後に羽化！綺麗な蝶になって、元気に飛び立っていきました。

●昆虫を食べてみた●

国連食糧農業機関 (FAO) も、昆虫を食べる昆虫食に注目しています。

昆虫食は、アジア、アフリカ、南米で特に盛んです。

そこで、昆虫を食べたことのない未来館スタッフは、伝統的に昆虫が食べられている長野県から4種類(蜂の子・ざざむし・蚕のさなぎ・いなご)の甘露煮をお取り寄せして食べてみました。試したことのない皆さんもぜひ。



いなごの甘露煮「エビのような食感で、昆虫食に対するハードルが下がった。」ざざむしの甘露煮「シジミのような味がする」(未来館スタッフの感想です)

昆虫を知ることから
新しい視点が生まれます。
昆虫も人も
同じ地球で生きていく仲間!!
昆虫に注目して、
嫌わずに、昆虫から環境を
考えてみましょう。